仙台市災害ボランティア応援紙＜　第５号 4/19　＞

# 復興ニッポン cha･cha･cha!

被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする＜支え合い、助け合い、協働＞のための情報紙です。「みんなは、どんな活動しているの？」今すぐ知りたい、アイデアや取り組み。災害ボランティア最前線からお届けします。（※cha は「care」「help」「act」の頭文字）

発行：仙台市災害ボランティアセンター

## ◆災害ボランティア・スナップ◆

**被災者の方を応援するため、１日でも早く普段通りの生活を取り戻していただくため、活動する災害ボランティア。活動の様子を、写真でお伝えします。**

災害ボランティアの活動場所を調整班が教えてくれます。地域の住宅地図が勢ぞろい

さあ、活動へ出発です！チームメンバー全員で打合せをして現地に向います

災害ボランティア活動で必要な道具たちがずらり。自転車、バケツ、作業着、軍手・・・

## 現場で活動する災害ボランティアの声をお届けします♪

地元の青葉区ボラセンに電話したら手が足りているということで、宮城野区ボラセンを紹介されました。大学生ですが、学校の休みが延びているのを利用しての参加で、僕は 3 回目、彼は 2 回目です。鶴ヶ谷に住んでいる方の家の片付けをしてきました。初顔合わせの 3 人でしたが、経験者がチームにいたお陰で自然と役割分担が出来て思ったよりもスムーズに作業が出来ました。（男性　二人・大学生　青葉区）

**【ボランティアの声･こえ】**
**自然と役割分担が**
**出来て作業が進みました。**

---

今までトータルで 13 日間くらい手伝いに来ています。夕べ（4 月 7 日 23：32 ころに発生、震度 6）の余震も大きかったけれど、自分の家はたいしたことありませんでした。今日行った所は高齢者の個人宅で奥さんが入院していて男性ひとりで大変だっていうので行って来ました。手伝いに娘さんが来ていたけど、若い力も借りると作業が早いね。（男性　65 歳）

**【ボランティアの声・こえ】**
**トータル 13 日間、**
**若い力を借りると作業が早いね。**

---

4月１日から新社会人としてスタートする予定でしたが、震災で入社式が延期になり、出社予定日も決まらず。何かできる事ないかなとネットで見つけてボラに来て今日で 2 回目です。鶴ヶ谷に住んでいる方の崩れた本棚の片付けをしてきました。急な坂道とちょっと遠いので自転車では大変でしたが、喜んでもらえたので良かったと思います。（男性　20 代）

**【ボランティアの声・こえ】**
**4 月から新社会人ですが、**
**入社式が延期になったので。**

---

住まいは青葉区ですがバイクでこちらに来ています。だいたい一週間くらいになります。参加するきっかけは自分の家よりもテレビとかで他所の家の方が大変だと思ったからです。宮城野区は被災地区も多いからかボランティアの方が多いですね。（男性　50 代　青葉区）

**【ボランティアの声・こえ】**
**青葉区から宮城野区へ。**
**バイクで通っています。**

---

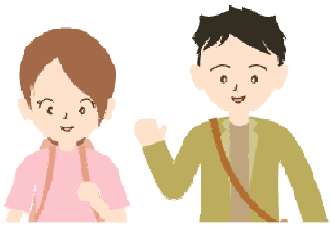
本社は横浜で中古タイヤのディーラーをしています。震災で仕事が暇になってしまったのと、本社から順番でボランティアに行くようにと言ってくれて、今までは 2 人ずつの参加でしたが、今日は仙台に勤務している社員全員できました。
津波の被害があった地区のドロの撤去作業でしたが、ドロがすごく手ごわい！やっぱり映像で見るのと違って生々しくて想像以上に大変でした。仲間でチーム組んで作業したということで達成感があるし、人のためにいい汗かけたという満足感も得られました。（男性　20 代～30 代）

**【ボランティアの声・こえ】**
**全社挙げて来ました！**
**チームワークバッチリです。**

---

3回目の参加です。自宅はたいした被害がなくて見ていたテレビにボラセンの案内があったので電話して参加したのが最初です。2 回目からは彼女を誘って一緒来ました。昨晩の余震で JR が止まったけれど、車があるので車で来ました。（男性　大学生　青葉区）

**【ボランティアの声・こえ】**
**大学の休みが延びたので**
**手伝いに来ました。**



ボランティアに誘われても特に抵抗はありませんでした。撤去したドロを一輪車に載せて運んだりしています。宮城野区や若林区は本当に被害がひどいですね。これからも学校が休みの期間を利用してボランティア活動に来たいと思います。（女性　大学生　若林区）

---

最初、3/23 に派遣ボランティアに参加して、その日に副センター長に運営ボランティアが足りないからと声をかけられて、今では運営管理ボランティアをしています。来週から大学の授業が始まるので今日が最終日です。ボランティア活動自体初めてだし、管理する側になるなんで今まで全くなかった

**【災害ボランティアセンター運営**
**ボランティアの声・こえ】**
**学校がはじまるから、**
**今日がボランティア最終日です。**

ので貴重な経験をさせてもらっています。仕事は館内の掃き掃除（ドロ撤去作業があり、館内にブルーシートを敷いているがすぐに汚れてしまう）、貸し出し品（胴長、長靴、軍手、厚手のビニール手袋、自転車など多数）の個数点検や、回収したビニール手袋の洗濯などがあります。貸し出し品は、回収前に外の水場で各自に洗ってもらいます。厚手のビニール手袋を一枚一枚裏返しにするのが結構大変です。でも、気持ちよく次の方に使ってもらえると思うとやりがいがありますよ。（女性　大学生　宮城野区）

---

普段はタイ舞踏や体操を教える仕事をしています。震災に遭い今自分に出来ることはなんだろうと思い、一番被害の大きい区でボランティアすることにしました。
高齢の方から「何から手をつけたらいいのかわからなくて」という依頼で片付けに行った時に、片付けした後に散らかった部屋が一変するのと同時に依頼主さんの表情も一変！明るく元気になって、涙流して喜んで貰えました。10 回くらい通ううちに運営スタッフとしてスカウトされ、依頼者とボランティア希望者のマッチングをする調整班にいます。体操や踊りで人の心を癒したり励ましたりできればと思っているので、見かけたら声をかけて下さい！（土屋悠太郎さん）

**【災害ボランティアセンター運営ボランティアの声・こえ】**
**今自分に出来ることを考えながら取り組んでいます。**

---

今ほしいのは人手です。継続して地域住民を支えたいと思っています。毎日じゃなくてももちろん構いません。貸し出し品も用意しているので、遠慮せずにまずは来てみてほしいです。（宮城野区災害ボランティアセンター職員　庄子さん）

## ◆　ゾウの聞き耳　　太白区災害ボランティアセンター　◆

各地の災害ボランティアセンターの状況を、ゾウのように大きな耳で聞いて、近況をお知らせします。

【八木山にボラセン拠点。東北工大が被災者サポート。】

ライフラインの中でも、困ったのは水でした。仙台市内でも復旧の遅れた太白エリア。しかも高齢の方が多い地域です。太白区のボラセンでは、要望の多い水くみ依頼に応えられるよう、３つの小学校と１つの集会所にボランティアを配置し、「携帯電話」と「給水容器」を用意して、サテライト形式を始めました。その動きとは別に、震災当初から八木山では東北工大の学生さんがボランティア活動を始めていました。水道が復旧したことでボラセンのサテライトは閉めたのですが、一部の地域では再び断水になりました。ちょうどそのころ、東北工大からボラセンへ「学生を派遣してよいでしょうか」の申し出が。そこで、ボランティアは工大生、携帯電話は町内会が用意、容器と自転車はボラセンが貸し出すという、新たなサテライト形式が生れました。その活動は現在も続いており、新たな地域連携や地域貢献への期待が高まっているところです。

## ★コラム　鳥の目・虫の目　　災害ボランティアの可能性

災害ボランティアの皆さんは、これからの可能性にあふれています。自分が住む地域をよりよくしたい、困っている人の手助けになれば、という気持ち・行動が被災地の復興、これからのまちづくりの土台になるからです。これから進む復興計画やまちづくり計画に参加し、一緒に汗を流し、知恵を出していきましょう。

＜地元の災害ボランティア活動のステップ例＞

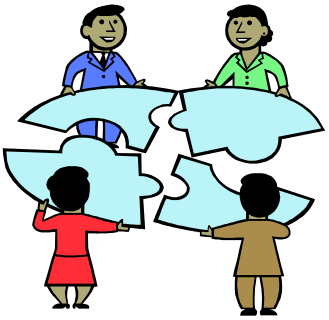
地震直後：自分・家族の安否確認、生活基盤の安定

活動期①：困っている方を助けたい、役にたちたい等

活動期②：自分のやる気を活かし、被災者に寄り添い活動

活動期③：息の長い支援、関係を大切にした継続的な支援

活動期④：まちづくりへの参画、自主グループづくり



## 編集後記

震災後初めて自分の目で地元の被災地（三井アウトレットパーク、白鳥団地、蒲生、岡田、荒浜方面）を見てきました。私の家から数キロしか離れていないのに、廃墟のような風景に言葉がありません。防風林の松が根こそぎ倒れていたり、コンクリートが剥がされて針金になった電柱の残骸があったりと目の前の風景が信じられませんでした。「この風景が元に戻ることはあるのだろうか？」自然の驚異に慄きながらも、「私たちの街だもん、自分たちで戻すしかない！」

誰しもが震災直後に、「今自分にできることは何だろう」と自問自答しながら生活したと思います。やっぱり自分の好きなこの街だから、自分たちの手で元に戻す努力をしていかなければと思います。本当の復興はこれから。大好きな地元の街を今まで以上にステキになるように作り上げていくぞ！（佐藤奈於子）

**発行：仙台市災害ボランティアセンター　広報班　黒田**

TEL022－262－7294　http://www.ssvc.ne.jp/　当紙が WEB で読めます！

**編集：広報ボランティアチーム　遠藤、大谷、木村、佐藤、茂木、山田**

**連絡先：仙台市災害ボランティアセンター　E メール sendai - vc@poppy.ocn.ne.jp**